



平成31年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成31年1月11日

上場会社名 松竹 株式会社 上場取引所 東 札 福
 コード番号 9601 URL <https://www.shochiku.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 迫本 淳一
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経理部長 (氏名) 尾崎 啓成 TEL 03-5550-1699
 四半期報告書提出予定日 平成31年1月11日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 平成31年2月期第3四半期の連結業績（平成30年3月1日～平成30年11月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年2月期第3四半期	66,937	△5.6	2,896	△46.1	2,355	△50.1	1,437	△51.7
30年2月期第3四半期	70,930	△4.0	5,370	△23.0	4,720	△23.8	2,976	△18.8

(注) 包括利益 31年2月期第3四半期 704百万円 (△87.6%) 30年2月期第3四半期 5,675百万円 (10.3%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年2月期第3四半期	104.63	—
30年2月期第3四半期	216.63	—

※平成29年9月1日付で普通株式10株について1株の割合で株式併合を行っております。これに伴い、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益額を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
31年2月期第3四半期	211,356	92,700	43.8	6,739.87
30年2月期	203,572	92,566	45.4	6,730.27

(参考) 自己資本 31年2月期第3四半期 92,589百万円 30年2月期 92,466百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年2月期	—	0.0	—	40.00	40.00
31年2月期	—	0.0	—	—	—
31年2月期(予想)	—	—	—	30.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 平成31年2月期の連結業績予想（平成30年3月1日～平成31年2月28日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	90,900	△2.1	3,830	△40.7	3,270	△43.4	1,950	△48.0	141.94

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：有
新規 一 社（社名） 、除外 1 社（社名）匿名組合築地ビルキャピタル

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	31年2月期3Q	13,937,857株	30年2月期	13,937,857株
② 期末自己株式数	31年2月期3Q	200,307株	30年2月期	199,026株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	31年2月期3Q	13,738,198株	30年2月期3Q	13,741,108株

※平成29年9月1日付で普通株式10株について1株の割合で株式併合を行っております。これに伴い、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、期中平均株式数を算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する説明	2
(2) 連結財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、各種政策の効果もあって企業収益および雇用情勢は改善し、雇用・所得環境が上向く中で、個人消費も持ち直しており、景気は緩やかな回復基調が続きました。

このような状況下、当企業グループはより一層の経営の効率化を図り、積極的な営業活動を展開いたしました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間は、売上高66,937百万円(前年同期比5.6%減)、営業利益2,896百万円(同46.1%減)、経常利益2,355百万円(同50.1%減)となり、特別損失53百万円を計上し、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,437百万円(同51.7%減)となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

(映像関連事業)

配給は、5月公開の「妻よ薔薇のように 家族はつらいよⅢ」は山田洋次監督の喜劇シリーズの3作目として、全国に笑いと感動を届け、6月公開の「空飛ぶタイヤ」は社会派エンターテインメントとして幅広い層に支持され大ヒットとなりましたが、10月公開の「パーフェクトワールド 君といる奇跡」「旅猫リポート」等は所期の目標に達しませんでした。

興行は、(株)松竹マルチプレックスシアターズにおいては、ポイントキャンペーンによる会員事業の強化、売店商品のリニューアル、上映作品の編成に工夫を図ることで、他社競合館との差別化を推進しました。

テレビ制作、映像ソフト、テレビ放映権販売、CS放送事業等は堅調に推移しました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は35,028百万円(前年同期比13.5%減)、セグメント損失は64百万円(前年同期はセグメント利益2,804百万円)となりました。

(演劇事業)

歌舞伎座で、「三月大歌舞伎」に、四世中村雀右衛門七回忌追善狂言「男女道成寺」をはじめ、片岡仁左衛門、坂東玉三郎による「於染久松色読販」などの話題作を揃えました。「四月大歌舞伎」は、明治百五十年を記念した「西郷と勝」、比較的上演頻度の少ない「裏表先代萩」、仁左衛門一世一代を謳った「絵本合法衛」といった狂言を揃え、好評を博しました。「團菊祭五月大歌舞伎」は、十二世市川團十郎五年祭を銘打ち、通し狂言「雷神不動北山櫻」や河竹黙阿弥作「弁天娘女男白浪」が人気を呼び盛況でした。「七月大歌舞伎」は、オペラや能楽を舞台に取り入れた「源氏物語」などが大きな話題を呼びました。「八月納涼歌舞伎」は、古典落語をもとにした「心中月夜星野屋」や、「東海道中膝栗毛」の第三作目などの新作歌舞伎を中心に大好評の公演となりました。初代中村吉右衛門を顕彰した「秀山祭九月大歌舞伎」、十八世中村勘三郎の七回忌追善興行「芸術祭十月大歌舞伎」も収益に貢献いたしました。

新橋演舞場は、3月は三谷幸喜の作・演出「江戸は燃えているか」をパルコとの共催で上演し大盛況となりました。4月、5月は「滝沢歌舞伎2018」が本年も好評を博しました。5月後半には、緒方洪庵の「蘭RAN」を前半の大阪松竹座に引き続いて上演し話題となりました。8月は集英社、テレビ東京などと共同で、人気少年漫画の舞台化、新作歌舞伎「NARUTO-ナルト-」を上演し、大盛況となりました。9月は中村芝翫主演のシェイクスピア四大悲劇の一つ「オセロー」が好成績を収めました。

大阪松竹座で、3月の関西ジャニーズJr.公演「春休みスペシャルShow2018」が好評を博しました。4月はスーパー歌舞伎Ⅱ(セカンド)「ワンピース」が市川猿之助、尾上右近のダブルキャストで堅実に収益を計上し、5月には「蘭RAN」とOSK「春のおどり」の2公演を上演、6月は山田洋次脚本・演出の音楽劇「マリウス」が新たに桐山照史主演で収益に貢献し、「七月大歌舞伎」は、二代目松本白鸚、十代目松本幸四郎襲名披露公演で多方面にわたる早期営業展開と話題喚起に努め、大盛況となりました。10月はご当地上方の名跡である二代目市川齊入・三代目市川右團次襲名披露の「十月大歌舞伎」が話題を呼びました。

南座は、耐震補強・改装工事のため、休館しておりましたが、11月に華々しく新開場。南座発祥四百年、南座新開場記念と銘打った、「當る亥歳 吉例顔見世興行」で高麗屋の三代襲名披露を行い、大盛況となりました。

その他の公演としては、5月の渋谷・コクーン歌舞伎「切られの与三」を中村七之助主演、串田和美演出・美術、木ノ下裕一補綴で上演し、6月の三越劇場は、昨年話題となりました喜多村緑郎、河合雪之丞の「黒蜥蜴」を全美版として再構築し、いずれも好評を博しました。

巡業公演は、4月に第三十四回「四国こんびら歌舞伎大芝居」を香川県で上演し、7月は公文協巡業として東コースでは、尾上菊之助を中心に、中央コースでは、八代目中村芝翫、四代目中村橋之助、三代目中村福之助の襲名披露公演を全国各地で展開しました。

受託製作では、新開場しました名古屋御園座にて、4月に「柿茸落四月大歌舞伎」を二代目松本白鸚、十代目松本幸四郎の襲名披露公演として上演し、5月はスーパー歌舞伎Ⅱ(セカンド)「ワンピース」、6月は名古屋初上演となる「滝沢歌舞伎2018」、10月は第四十九回「吉例顔見世」がそれぞれ大好評の舞台となりました。

シネマ歌舞伎、METライブビューイングは、堅調に推移しました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は19,940百万円(前年同期比10.4%増)、セグメント利益は1,590百万円(同73.3%増)となりました。

(不動産事業)

不動産賃貸は、歌舞伎座タワー・築地松竹ビル(銀座松竹スクエア)・東劇ビル・新宿松竹会館(新宿ピカデリー)・有楽町センタービル(マリオン)・松竹倶楽部ビル等の満室が続き、全体でも高い稼働率で安定収入に貢献しました。11月には新築工事中であった京都松竹阪井座ビル及び耐震補強工事中であった南座が開業いたしました。また、各テナントとの賃料交渉にも誠実に対応し利益確保に努め、効率的運営、経費削減を推進し、計画どおりに利益を確保しました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は7,887百万円(前年同期比1.9%増)、セグメント利益は3,479百万円(同1.3%増)となりました。

(その他)

プログラム・キャラクター商品は、劇場プログラムで「機動戦士ガンダム」シリーズ、「銀魂2 掟は破るためにこそある」が収益に貢献しました。キャラクター商品は「宇宙戦艦ヤマト2202」シリーズ等のアニメ作品が好調な売上となりました。

イベント事業は東京タワー、京都タワーでのお化け屋敷「松竹お化け屋本舗」や創刊40周年記念「ムー展」等が人気を博しました。

キャラクター「かぶきにゃんたろう」プロジェクトにおいては、3月からはサンリオピューロランド内で上演が始まった「歌舞伎」と「ミュージカル」がコラボした「KAWAII KABUKI ～ハローキティ一座の桃太郎～」の劇中にも、かぶきにゃんたろうが登場し人気を博しており、関連商品やライセンスの展開も積極的に行いました。

貸衣裳事業、清掃事業及び舞台大道具製作事業は堅調に推移しました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は4,080百万円(前年同期比11.5%減)、セグメント利益は277百万円(同35.9%減)となりました。

(2) 連結財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ7,783百万円増加し、211,356百万円となりました。これは主に建物及び構築物(純額)並びに設備(純額)の増加等によるものであります。

なお、信託契約解除に伴い、信託預金(責任財産限定対象)、信託建物(責任財産限定対象)(純額)及び信託土地(責任財産限定対象)は、現金及び預金、建物及び構築物(純額)並びに土地にそれぞれ振り替えております。

負債は、前連結会計年度末に比べ7,649百万円増加し、118,656百万円となりました。これは主に長期借入金(責任財産限定)の減少があったものの、長期借入金が増加したこと等によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ133百万円増加し、92,700百万円となりました。これは主にその他有価証券評価差額金の減少があったものの、利益剰余金が増加したこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成31年2月期の連結業績予想につきましては、当第3四半期連結累計期間の業績及び今後の見通しを検討した結果、平成30年4月13日付「平成30年2月期 決算短信」にて発表いたしました連結業績予想を変更しております。詳細は、本日発表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	15,433	20,256
現金及び預金（責任財産限定対象）	12,313	11,198
信託預金（責任財産限定対象）	3,221	—
受取手形及び売掛金	6,976	7,615
商品及び製品	1,506	1,782
仕掛品	3,672	4,352
原材料及び貯蔵品	82	84
その他	2,797	4,609
貸倒引当金	△5	△6
流動資産合計	45,999	49,891
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	16,082	28,910
建物及び構築物（責任財産限定対象）（純額）	18,326	17,660
信託建物（責任財産限定対象）（純額）	9,893	—
設備（純額）	8,663	11,475
土地	21,998	41,080
信託土地（責任財産限定対象）	18,751	—
その他（純額）	6,807	5,996
有形固定資産合計	100,523	105,125
無形固定資産		
その他	2,451	2,520
無形固定資産合計	2,451	2,520
投資その他の資産		
投資有価証券	33,302	32,811
長期前払費用（責任財産限定対象）	12,915	12,687
退職給付に係る資産	1,112	1,057
その他	7,368	7,364
貸倒引当金	△100	△101
投資その他の資産合計	54,599	53,819
固定資産合計	157,573	161,464
資産合計	203,572	211,356

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年11月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,476	7,661
1年内償還予定の社債(責任財産限定)	—	500
短期借入金	4,167	3,687
1年内返済予定の長期借入金	6,884	9,516
1年内返済予定の長期借入金(責任財産限定)	17,306	20,310
未払法人税等	751	450
賞与引当金	477	174
その他	7,371	10,095
流動負債合計	44,434	52,396
固定負債		
社債	1,100	1,100
社債(責任財産限定)	500	—
長期借入金	23,189	44,049
長期借入金(責任財産限定)	20,310	—
役員退職慰労引当金	898	958
退職給付に係る負債	1,357	1,398
資産除去債務	1,318	1,300
その他	17,897	17,451
固定負債合計	66,572	66,259
負債合計	111,006	118,656
純資産の部		
株主資本		
資本金	33,018	33,018
資本剰余金	30,136	30,136
利益剰余金	18,094	18,979
自己株式	△1,419	△1,437
株主資本合計	79,829	80,696
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	12,124	11,400
退職給付に係る調整累計額	512	492
その他の包括利益累計額合計	12,636	11,892
非支配株主持分	100	110
純資産合計	92,566	92,700
負債純資産合計	203,572	211,356

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年3月1日 至平成30年11月30日)
売上高	70,930	66,937
売上原価	39,876	37,956
売上総利益	31,054	28,980
販売費及び一般管理費	25,684	26,084
営業利益	5,370	2,896
営業外収益		
受取利息	8	6
受取配当金	235	268
持分法による投資利益	5	57
貸倒引当金戻入額	3	—
その他	91	102
営業外収益合計	343	435
営業外費用		
支払利息	672	553
借入手数料	142	239
その他	178	183
営業外費用合計	993	976
経常利益	4,720	2,355
特別利益		
違約金収入	363	—
特別利益合計	363	—
特別損失		
固定資産除却損	493	53
和解金	60	—
特別損失合計	553	53
税金等調整前四半期純利益	4,529	2,302
法人税、住民税及び事業税	1,608	993
法人税等調整額	△75	△139
法人税等合計	1,532	854
四半期純利益	2,997	1,448
非支配株主に帰属する四半期純利益	20	10
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,976	1,437

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成29年3月1日 至 平成29年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成30年3月1日 至 平成30年11月30日)
四半期純利益	2,997	1,448
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,662	△720
退職給付に係る調整額	14	△19
持分法適用会社に対する持分相当額	2	△3
その他の包括利益合計	2,678	△743
四半期包括利益	5,675	704
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	5,655	693
非支配株主に係る四半期包括利益	20	10

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

第1四半期連結会計期間より、当社の連結子会社である匿名組合築地ビルキャピタルは、当社を吸収合併存続会社、匿名組合築地ビルキャピタルの営業者である当社100%出資の子会社の築地ビルキャピタル有限会社を吸収合併消滅会社とする吸収合併を行った結果、混同により消滅となり、連結の範囲から除外しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間（自平成29年3月1日 至平成29年11月30日）
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	映像関連事業	演劇事業	不動産事業	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
売上高							
外部顧客への売上高	40,514	18,062	7,741	4,613	70,930	—	70,930
セグメント間の内部売上高又は振替高	78	127	1,246	3,300	4,752	△4,752	—
計	40,592	18,189	8,987	7,913	75,683	△4,752	70,930
セグメント利益	2,804	917	3,435	432	7,589	△2,219	5,370

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、舞台衣裳の製作・販売・賃貸、プログラムの製作・販売、キャラクター商品の企画・販売、演劇舞台の大道具・小道具・音響の製作・販売、音楽著作権の利用開発・許諾、不動産の管理・清掃等であります。
2. セグメント利益の調整額△2,219百万円には、セグメント間取引消去51百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△2,270百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の総務部門等管理部門に係る経費であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間（自平成30年3月1日 至平成30年11月30日）
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	映像関連事業	演劇事業	不動産事業	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
売上高							
外部顧客への売上高	35,028	19,940	7,887	4,080	66,937	—	66,937
セグメント間の内部売上高又は振替高	104	92	1,230	3,014	4,442	△4,442	—
計	35,133	20,032	9,117	7,095	71,379	△4,442	66,937
セグメント利益又は損失(△)	△64	1,590	3,479	277	5,282	△2,385	2,896

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、舞台衣裳の製作・販売・賃貸、プログラムの製作・販売、キャラクター商品の企画・販売、演劇舞台の大道具・小道具・音響の製作・販売、音楽著作権の利用開発・許諾、不動産の管理・清掃等であります。
2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△2,385百万円には、セグメント間取引消去14百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△2,400百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の総務部門等管理部門に係る経費であります。
3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。